

総務省国立研究開発法人審議会（第20回）

1 日 時 令和6年8月5日（月）13時00分～14時25分

2 場 所 WEB会議にて開催

3 出席者

（1）委員

尾家会長、梅比良会長代理、大場委員、知野委員、藤野委員、若林委員

（以上6名）

（2）専門委員

入澤専門委員、生越専門委員、小塚専門委員、小紫専門委員、

篠永専門委員、末松専門委員、藤本専門委員、前原専門委員、

森井専門委員、森田専門委員、矢入専門委員

（以上11名）

（3）総務省

竹村国際戦略局長、近藤官房審議官（国際技術、サイバーセキュリティ担当）、

森下国際戦略課長、扇宇宙通信政策課長、

津幡技術政策課技術革新研究官、内田技術政策課企画官、平野技術政策課課長補佐

4 議 題

（1）令和5年度における国立研究開発法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価
について

（2）令和5年度及び第4期中長期目標期間終了時に見込まれる国立研究開発法人宇宙航
空研究開発機構の業務の実績に関する評価について

（3）国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務及び組織全般の見直しについて

開 会

【尾家会長】 ただいまから第20回総務省国立研究開発法人審議会を開催いたします。

本日は御多忙のところ御参集いただきまして、誠にありがとうございます。今回はウェブ形式での開催でございます。

初めに、本日の会議の定足数の関係でございますが、委員7名中6名が出席されており、定足数を満たしておりますことを御報告いたします。また、専門委員の皆様にも御出席いただいております。

なお、本日は大きく3つの議題がございますが、議題3につきましては、JAXAの次期中長期目標策定に向けての委員間の率直な意見の交換が損なわれないために、非公開での審議が適当なことから、総務省国立研究開発法人審議会議事規則第7条第1項及び第2項に定めておりますように、非公開にて行いたいと思います。

また、本日は会議を15時まで予定しておりますところ、議事の進行によりましては、前倒しで終了する可能性がございますので、あらかじめ御了承ください。

それでは、開催に先立ちまして、竹村国際戦略局長に御挨拶をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【竹村局長】 国際戦略局長の竹村でございます。去る7月5日に就任をいたしました、開会に当たり一言御挨拶を申し上げます。

本日は、総務省が所管しております2つの国立研究開発法人でありますNICTとJAXAに関しまして、NICTにつきましては、令和5年度の業務実績評価、JAXAにつきましては、令和5年度及び第4期中長期目標期間終了時に見込まれる業務の実績に関する評価、それから3番目としてJAXAの業務及び組織全体の見直しについて御審議いただく予定となっております。

NICTとJAXAは、国立研究開発法人として、国が定める中長期目標を達成するため、自ら作成した中長期計画に基づき、適正に業務を進め、研究開発成果の最大化を図ることが求められております。また、両法人には、得られた成果を着実に社会へと展開、実装していくことが強く期待されております。さらに両法人においては、法改正によりまして基金が設置されておまして、民間企業などへのファンディングエージェンシーとしての役割も担っております。

両法人の活用をよりよいものにしていく観点から、本日は閣下に御議論いただき、忌憚のない御意見を頂戴できればと存じます。尾家会長をはじめ委員及び専門委員の皆様のご協

力御指導をよろしくお願いいたします。以上で御挨拶とさせていただきます。

【尾家会長】 竹村局長、どうもありがとうございました。

なお、会の構成は、参考国研20-10のとおりでございます。

それでは、事務局より配付資料の確認をお願いいたします。

【平野課長補佐】 事務局でございます。それでは、本日の配付資料を確認させていただきます。資料国研20-1から20-3、こちらがメインの配付資料となっております。参考資料につきましては、参考国研20-1から20-10まででございます。ファイルの破損等がございましたら事務局までお知らせください。事務局からは以上でございます。

令和5年度における国立研究開発法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価について

【尾家会長】 それでは、お手元の議事次第に従いまして、議事を進めてまいりたいと思います。

まず議題1、令和5年度における国立研究開発法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価について、事務局より説明をお願いいたします。

【平野課長補佐】 事務局でございます。それでは、資料国研20-1に従いまして御説明をさせていただきます。これまでNICT部会におきましては、計4回にわたるヒアリングを行いまして、また、2回の活発な御審議をいただきました。本資料はその結果を取りまとめたものでございます。

まず、冒頭ではございますが、尾家部会長をはじめ委員、専門委員の皆様には、お忙しい中、御尽力いただきまして誠にありがとうございました。

それでは、この資料の御説明に入ります。まず、本資料の構成でございますけれども、1ページ目及び2ページ目が令和5年度の審議会の意見（案）の概要でございます。本日はこちらに基づきまして御説明させていただきます。なお、3ページ目以降が意見（案）となりまして、3ページ目及び4ページ目が全体の評定、5ページ目以降が各分野の評価及び評価のポイント、評価に至った理由でございます。それでは、資料の1ページから順番に御説明できればと思っております。

まず1ページでございます。令和5年度におけるNICTの業務実績に関する評価（案）の概要でございます。令和5年度は、第5期中長期計画の3年目に当たります。まず全体の評定はAとしております。この評定は、当該国立研究開発法人の目的、業務、中長期目標に

照らし、当該法人の活動による成果、取組等について諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、適正、効果的かつ効率的な業務運営の下で「研究開発成果の最大化」に向けて顕著な成果の創出や将来的な成果の創出の期待が認められるという評価でございます。

後ほどこちらにつきましては詳細を御説明させていただきますが、項目別評定の結果を総合的に勘案した結果でございます。業務の一部がSないしはBであるものの、NICTとしての重要度の高い研究開発業務、特に電磁波先進技術分野、革新的ネットワーク分野、サイバーセキュリティ分野、ユニバーサルコミュニケーション分野、フロンティアサイエンス分野及びBeyond 5Gの推進については、6つのうち4つがAという評価でございます。また、全体の評定を引き下げる事象もなかったことから、評価基準に基づきAとしたものでございます。

続きまして、法人全体に対する評価の要旨について御説明いたします。

1点目、特に重要な業務運営上の課題は検出されておらず、全体として顕著な組織運営が行われていると評価しております。なお、重要度の高い5つの分野及び分野横断的な研究開発その他の業務において、顕著な成果が見られました。

2点目、サイバーセキュリティ分野ではS評価となりました。理由といたしましては、サイバーセキュリティ演習の実施において、CYDER等に加え、大阪・関西万博向けのサイバー防御演習を開始しまして、特に地方自治体や中小規模の組織のセキュリティ対応能力を強化したことが挙げられております。さらにサイバーセキュリティ産学官連携拠点たるCYNEXアライアンスを設立しまして、ICT人材の育成を推進しております。同アライアンスに参加する企業や団体、大学は60組織を超えまして、非常に影響力のあるアライアンスとなったことと、共同研究や研修プログラムの実施を通じまして、最新の技術と知識を共有しまして、産学官連携によるICT人材の育成を推進していること、以上の3点が高評価にされた理由として挙げられております。

3点目でございます。ユニバーサルコミュニケーション分野でもS評価となりました。こちらも高評価された理由といたしましては大きく2点ございまして、1点目、日本語特化型で世界最大の3,110億パラメータのモデルを含む、複数の大規模言語モデル「NICT LLM」を短期間で開発し、その基本性能を評価したところ、一定の精度で質問応答、創作、議論等が可能であることが確認されたこと。また、日英中韓越仏の任意2言語間チャンク翻訳の実現など、社会的要請に応える形で技術を進化させたことによって、リアルタイムでの多言語コミュニケーションが可能となって、大阪・関西万博などグローバルなイベントでの

利用が期待されること、これらがその理由として挙げられております。

4点目でございます。その他の4つの研究開発分野、電磁波先進技術分野、革新的ネットワーク分野、フロンティアサイエンス分野及びB e y o n d 5 Gの推進におきましてはA評価となりました。

以上が、法人全体に対する評価の要旨でございます。

1ページ目の下段でございますけれども、その他共通の事項として複数の委員から頂戴した審議会の主な意見でございます。

1点目、外部資金獲得に向けた取組、それを受けた獲得額の伸びが財務内容に寄与しているとの意見がございました。

2点目、人材流出の防止、研究開発成果での積極的な情報発信等で努力が見られるとの意見もございました。

以上が機構への総合評価案の概要でございます。

また、このほか委員の皆様から業務運営上の課題やアドバイスなど多くの点を挙げていただきましたので、別途機構にお伝えしたいと考えております。

続きまして2ページ目を御覧ください。こちらは項目別評定の総括表でございます。この総括表では、機構の業務の実績に関する評価について、機構の自己評価等にN I C T部会での検討の結果を踏まえた審議会の意見案が並べられております。まず、表中の赤枠で囲われた箇所のうち、薄紺色が機構の自己評価、薄緑色が審議会の意見案となります。機構の自己評価はおおむね妥当との結果になってございます。

特にN I C T部会では、先ほど御説明させていただきましたサイバーセキュリティ分野において、部会としての評価はSとする一方で、様々なコメントをいただきまして、例えば前中長期計画、つまり第4次中長期計画からの延長線となっておりまして、A評価相当であってS評価には至らないのではないかといった御意見や、特にセキュリティ分野はなかなかオープンにできない事項もある中で、C Y N E Xアライアンスを用いてどのような成果を得たのかを定量的に示してほしいといった意見、例えばもう1点は、S評価が続くと、このまま進めればよいという意識がN I C Tのセキュリティ研究所に芽生える可能性がある、こういった意見もございました。

議論の結果、最終的にはこうした問題意識を機構にも伝えるという前提で、令和5年度につきましては、その顕著な成果を認め、S評価が適用とされたという流れになってございます。

以上が項目別評定の総括議論の内容でございました。

なお、冒頭説明させていただきましたとおり、次の3ページ目からは意見書の案でございます。3ページ目及び4ページ目は総合評価となっておりまして、先ほど御説明申し上げた概要はこれらの意見書を基に作成をしているものでございます。

続く5ページ目以降は、個別の項目について、No. 1からNo. 10まで、それぞれの評定の評価に至った理由について具体的に記載をしております。大部となりますので、ここでの説明は割愛をさせていただきます。

資料につきましての御説明は以上でございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。それでは、ただいまの説明につきまして、御質問、御意見などがございましたらお願いいたします。

NICT部会では、時間をかけまして審議させていただき、今のようないろんな議論も行われた結果になっております。JAXA部会の方々にとりましては初めて御覧になると思いますので、御質問などいただければと思います。いかがでしょうか。

梅比良先生、いかがですか。これからJAXAのほうの説明があるんですけども、NICT部会の評価につきまして、何か御感想でも結構です。

【梅比良会長代理】 JAXA部会の部会長をしています梅比良と申します。1点お伺いしたかったのは、まだ始まったばかりでもあるのでなかなか難しいだろうとは思いますが、6番の分野横断的な研究開発その他のところでは、これはBeyond 5Gの基金の運営のことを指しておられると思うんですけども、これの評価についてはどのようにやられたのか、もし御紹介いただければと思います。

と言いますのも、今度、宇宙戦略基金ということでJAXAのほうも似たようなファンクションを持つことになって、こういったのをどういうふうに評価するのか、実際に研究開発を進められるのはファンドを得られた方になるわけです。それで、運営をNICTが請け負っているというような格好になっているかと思うんですけども、今回どういう格好で評価されたのか、少し簡単に紹介いただければ幸いです。よろしく申し上げます。

【尾家会長】 ありがとうございます。私から簡単に答えさせていただきます、また事務局から補足いただければと思います。

今まさに19ページで示されておりますが、公募型の研究開発プログラムをどのように運営してきたかということで、創意工夫がいろんな点でなされてきたということを確認しています。例えば知財を獲得するためのいろんなサポートですとか、あと採択された際に、

採択された方々に対して、選考委員会においてどういう意見があったかを最初にお伝えするなど、採択されたプログラムが効果的に実施されるように、大変工夫がなされていたということを確認して評価させていただいております。

事務局から何か補足していただけるものはございますか。

【津幡技術革新研究官】 ありがとうございます。事務局から津幡でございます。今、尾家先生から御説明いただいたほかに、NICT部会では、今日の参考資料で参考国研20-2にお示しておりますけれども、今の基金の業務を始めるに当たって、昨年度から中長期目標の一番最後の評価軸を増やしまして、NICTから自己評価として報告していただく事項を増やしております。その自己評価の結果につきましては、参考国研20-1の資料で、こういう活動をやりましたということをいただいております、NICT部会においては、それらの資料及びほかにヒアリングも行っていますけれども、それに基づいて評価させていただいたということでございます。

【梅比良会長代理】 どうもありがとうございました。基本的には運営をやって、実際に採択された方がやりやすいような運営や、運営体制を整えられたということが評価軸になるという理解でよろしいでしょうか。

【尾家会長】 はい、そのように考えております。

【梅比良会長代理】 分かりました。ぜひ、こういう貴重な知見を、今度JAXAのほうと同じようなことをやることになるので、うまく情報共有をしていただければと思いました。これは府省庁さんへのお願いになりますけれども、よろしくお願いたします。

【尾家会長】 ありがとうございます。そのほかに何か御質問、御意見などはございませんか。

【生越専門委員】 東京理科大学の生越と申します。今の御回答に関してですけれども、研究委託とかをした場合、その企業が特許権を取ったときに、国の研究所と協力して取った場合に、その特許権を中小企業とかに残すことができるというバイ・ドール規定があります。そういう場合はどういう場合かというのを、あらかじめ国研のほうで条件を開示をしておいたほうがいいというのが通例の考え方です。

JAXAの場合は、宇宙だとあまり特許権は関係ない場合があります、だからそういう意味で、より企業さんが一緒に共同研究をしたくなるというインセンティブにもなりますので、バイ・ドールとか、あとコンテンツの保護推進活用法でも同じことを規定しておりますので、著作権も残すことができますから、ぜひ、積極的に活用されたいなと思いまし

た。以上です。

【尾家会長】 ありがとうございます。その辺りの仕組みにつきましては、恐らくこのプログラムで研究を実施される方々には御説明はされているかと思いますが、何か事務局からも情報がございますか。

【津幡技術革新研究官】 尾家先生、そのとおりでございます。そういう制度については適宜適用させていただいております。

なお、特許の件数等については、その権利がどこに行くかというのはもちろんあるのですが、この研究に基づいて取った特許の件数等については、自己評価の中に入れる、つまりその企業から報告していただくということでこのNICTの評価に反映していくという仕組みになっております。

【生越専門委員】 御説明ありがとうございます。了解しました。

【尾家会長】 どうも御質問ありがとうございました。それでは藤本委員、お願いいたします。

【藤本専門委員】 情報セキュリティ大学院大学の藤本です。御説明ありがとうございます。サイバーセキュリティの分野で、NICT様の御活躍、活発な御活動は日頃拝見しております。一方で、サイバー攻撃がかなり激化して多様化もしておりまして、深刻な状況かと思っています。そういった状況下で、今回のレビューにおいて、何か御活動について見直しや強化を行うとか、そういった御議論はあったのでしょうか。

【尾家会長】 どうも御質問ありがとうございます。御指摘のとおり、サイバー攻撃は高度化して複雑化しておりますので、それに対して十分に対応も進化しなくてはならないということで、NICTはその努力を重ねてきていると思っております。その辺りにつきまして、何か委員の皆様等で補足の説明が、お返事していただける方はいらっしゃいますか。

森井先生、いかがでしょう。

【森井専門委員】 森井です。NICTさんのほうはサイバーセキュリティに関してSの評価で、前中長期計画から引き続いて、非常に活発に活動されているということで、委員の先生方全員の評価でSということになっています。ただ単に、非常にいい試みをやっていますねという評価だけじゃなくて、当然ですけれども、より一層にということ、新しい試みを当然されているわけです。2025年の万博にかけてということで、その対策と、それから教育とかそういうところもしっかり実施されているということですが、それだけではなくて、今後の新しい公益とかそういうのに対して取り組もうとしていることは分かるん

ですけれども、さらに定量的な評価だとか、具体的な評価といえますか、具体的な成果について、より活発に活動するとともに、それをしっかりと表記してほしいという要望も出して、今後の活動に期待するという一方で、いろいろと幾つか注文をつけていますけれども、それで今後について活動していきたいということで、委員会の中ではそのようなコメントをさせていただきます。以上です。

【藤本専門委員】 御説明ありがとうございました。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

【尾家会長】 御質問ありがとうございました。そのほか何か御質問、御意見はございませんか。よろしいでしょうか。NICT部会の方々からも何か補足とかはございませんか。よろしいでしょうか。

では、特に御意見がないようですので、それでは、令和5年度におけるNICTの業務実績評価に対する意見につきましては、案のとおり取りまとめたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【尾家会長】 ありがとうございます。それでは、案のとおり取りまとめたいと思います。総務省におきましては、引き続き最終的な評価に向けた作業等をお願いいたします。なお、NICTの最終的な評価結果につきましては、後日、事務局から委員及び専門委員宛てにお知らせいただきたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、続きまして議題2、令和5年度における国立研究開発法人宇宙研究開発機構の業務の実績に関する評価について、事務局より説明をお願いいたします。

令和5年度及び第4期中長期目標期間終了時に見込まれる国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する評価について

【扇課長】 JAXA部会の事務局を務めております、総務省の宇宙通信政策課長の扇と申します。どうぞよろしくお願いいたします。資料につきましては、今投影されております資料国研20-2に基づいて御説明をさせていただきます。

JAXAにつきましては、中長期の目標期間が平成30年度から7年間となっております。令和5年度については6年目の評価ということでございまして、今回の御審議ではこの令和5年度の業務実績評価と、それから第4期中長期目標期間終了時に見込まれる業務の実績評価の2件について御審議をお願いするものでございます。ビデオは切らせてい

ただいで御説明を続けさせていただきます。

本意見案を取りまとめるに当たりましては、本審議会のJAXA部会の先生方を含めまず4府省での合同ヒアリングを実施してございます。その上で、JAXA部会は7月23日に開催いたしまして、意見案の取りまとめを行っていただいたものでございます。梅比良部会長をはじめ部会の先生方には改めて御礼申し上げる次第でございます。

それで、皆様御案内のとおりでございますけれども、JAXAにつきましては総務省を含めて内閣府、文部科学省、経済産業省の4省での共管となっております。そのため、本日お取りまとめいただきます、総務省の国研審の御意見に加えまして、各省においても審議会から御意見をいただいた後、共管の4府省での協議の上、最終的に主務大臣の評価という形で決定することになっておりますので、御承知いただければと思います。

本日の資料、こちらの20-2でございますけれども、全体の構成としましては、1ページ目で令和5年度、それから項目的には一緒になりますので、中長期の見込みをまとめた形での1枚の概要をお示ししてございます。その上で2ページ目と3ページ目で、それぞれ令和5年度、それから見込みの評価についての概略を記載してございまして、4ページ目以降で、個別の項目についての意見案を記載しているところでございます。

それでは、1ページに戻っていただきまして、こちらも例年どおりではございますけれども、先ほどのNICTの意見案の資料では、全体の評定という項目があったかと思っておりますけれども、JAXAの全体評定につきましては、共管の4府省で協議の上、決定するということになっておりますので、各項目の評価については、そちらで改めてということでございます。

こちらを見ていただきますと、総務省の国研審におきましては、JAXAの業務のうち、航空関係については評価を行わないということになっておりますので、令和5年度分としては、そちらを除く、全体27項目あるうちの26項目について、JAXAの自己評定、それからそれに対する部会の意見案をお示ししてございます。また、中長期の見込みについては、この26項目に加えまして、こちらの資料で言いますと一番右下のところに、VI.3ということで「中長期目標期間を超える債務負担」という項目がございますけど、こちらも評価することになってございますので、全部で27項目についての御意見をいただくという形になってございます。

今、投影いただいている資料の表の見方ですけれども、審議会の意見のところに結構いろいろ丸がついているかと思っております。こちらは、部会の議論におきまして、JAXAの自己評

定について、それが妥当であると判断されたものを丸と記載してございます。例えば一番上、Ⅲ. 3. 1の準天頂衛星システムについては、令和5年度のJAXAの自己評価はSと。部会でもこちらはSが妥当ということで記載をしております、ということで丸がついているものは基本的にはJAXAの評価どおりということですので、それ以外のところが、特に赤字で下線も引いておりますけども、そちらが自己評価と異なるものということで、部会の中で議論が主に行われた項目になってございます。

それで、令和5年度における業務実績の概略としまして、こちらの四角のポツで一番上に書いておるような内容になっております。総務省担当分27項目について、JAXAの自己評価Sが8項目、Aが11項目、Bが8項目となっておりますけれども、それについて、一部で評価が高過ぎるというようなものもございました。また、改善が必要なもの、後ほど御説明しますが、具体的にⅢ. 7. 4の「情報システムの活用と情報セキュリティの確保」のところでは若干改善が必要という御指摘はありましたけれども、おおむね妥当であろうという評価をいただいております。多くの項目について、特に顕著な成果、Sが5、ないしは顕著な成果、Aが14ということで、大きな成果を上げているという全体の評価をいただいているところでございます。

また、第4期中長期目標期間の見込み評価ですけれども、こちらについては28項目のうち、JAXAの自己評価は、Sが8、Aが15、Bが5となっております。こちらについても、幾つかの項目については、JAXAさんの評価、これも後ほど御説明申し上げようと思っておりますけれども、Aがずっと続くとトータルとしてはSになるというような自己評価をされておるところがあるんですけれども、そこについての明確な根拠が示されていないということで、若干評価が下がっているところはございますけれども、トータルとして見るとおおむね妥当であると。多くの項目について特に顕著な成果または顕著な成果を上げているという評価をいただいているところでございます。

そうしましたら、続きまして2ページに移らせていただきたいと思います。こちらでは、先ほど申し上げた、令和5年度の評価分の26項目のうち、主に総務省に係るような通信関係の項目でありますとか、あるいはJAXAの自己評価と部会での御意見が割れたところを主に取り上げさせていただいております。その上で、下のほうの法人の全体評価に関する意見についても2点ピックアップをさせていただいているものでございます。

まず、上から順に1つ目の「次世代通信サービス」でございますけれども、こちらはJAXAの自己評価はBです。それで部会での評価もBとなっております。こちらについては、

読み上げさせていただきますが、令和4年度におけるE T S - 9の打ち上げの延期、こちらは来年度に延期されておりますけれども、それであるとか、あるいはH 3の打ち上げ失敗によるA L O S - 3の喪失によって、光衛星通信技術の実証機会に後れを取ったと。一方で、光データ中継衛星が打ち上げた後に、軌道上での運用がなされていること、それから光データ中継衛星におけるL U C A S等の光通信技術が諸外国に比肩するレベルになったということ自体は評価できるであろうということで、トータルとしましては、もともとのJ A X Aの計画に基づいて実施されているということで、B評価が妥当という御評価となっております。

それから2点目が「人工衛星等の開発・運用を支える基盤技術」ということで、こちらもJ A X Aの自己評価はAに対して、部会でもそれが妥当であるということでA評定となっているものでございます。こちらについては地球観測衛星、それから月探査等のJ A X Aのミッションに係る周波数の保護・利用に向けた国際ルールへの取組、それから国際月探査においてもルール形成というような、ルール形成ものへの取組を開始しているということが実績として挙げられております。こういったことを踏まえますと、顕著な成果を創出しているだろうということでA評定が妥当という御意見をいただいているところでございます。

それから3点目が「情報システムの活用と情報セキュリティの確保」ということで、ここが一番議論としてはあったところでございます。J A X Aのサイバーインシデントがあったということが最近、報道で出ているところでございます。ここに関連してということでありまして、読み上げさせていただきますと、V P N装置の脆弱性を悪用するサイバー攻撃が行われたと。それについて外部機関から指摘される昨年10月までその状況に気づかなかつた。その結果、外部の業務情報であったり、あるいは個人情報の漏洩が発生した。他方で、J A X Aで報道発表しておりますけれども、例えばロケットの打ち上げの関係ですとか、結果的に業務への重大な影響は回避できたということが言われてございます。

そういったことはありますけれども、この点に対するメディア対応を含む外部への広報を含めたマネジメントが適切だったのかということにつきましては、必ずしもJ A X Aからの御説明の中でB評価が妥当であると、一定のプロシージャーに基づいて対応したとか、そういったところでの十分な情報ということがBと言えるまでの情報は得られてなからうというようなことでございまして、Cになってございます。他方で、セキュリティ対策については、不断の見直しが常々求められる分野でもありますので、ここはJ A X Aを非難するというよりは、むしろ頑張っていたきたいということで常に工夫、改善等を期待したい

という意見案となっております。

それから、下の法人全体に対する意見の概要ということで大きく2点ございます。1点目が、一番大きいのが新たにJAXAに宇宙戦略基金という、先ほどもお話のありましたファンディングエージェンシーの機能が追加されたということで、JAXAの予算全体を上回る巨大な基金ができたということで、これまでとは性格の異なる業務であって、組織としての一体感、それから内部統制機能が失われることがないよう、理事長のリーダーシップの下できちんと進めていただきたいというコメントをいただいております。

この点に関しまして、資料1ページに戻っていただければよろしいでしょうか。こちらは昨年度にできた基金ということで、今回の評価でもなされてはございます。JAXAの自己評定B、それから部会での意見案Bということでございますけれども、こちらは昨年度の補正予算で予算がついたということもありまして、昨年度の実績としては、実際の基金開始に向けた準備を始めた。具体的には各省のほうからJAXAに対して補助金という形でお金を振り込んだというところまでが昨年度の実績になっておりますので、そういった意味で、もともと計画どおりのBという自己評定及び意見案となっているところでございます。

また2ページに戻っていただきまして、法人全体に関する意見の概要の2点目でございます。H3、それからアルテミス計画等の月の関係へのコメントが多くございました。読み上げさせていただきますと、H3のロケットの打ち上げ成功、月着陸機「SLIM」の月面ピンポイント着陸成功のほか、アメリカのアルテミス計画で日本人飛行士2人の月面着陸、それからNASAによる有人と圧ローバー調達が決まるなど、日本の宇宙開発が大きく前進したということが記載されてございます。

こちらは厳密に言いますと、首脳間での発表であるとか、あるいは盛山文科大臣とNASAの長官との会合等は今年度に入ってからですけれども、実際にその準備は昨年度既に行われていたということでコメントが出ているところでございます。

続きまして、3ページに行きまして、第4期中長期の見込み評価の概要でございます。基本的に項目としては、先ほどのものと大体似通ってはおりますけれども、まず総務省関連ということで、「次世代通信サービス」の部分でございます。こちらはJAXAの自己評定はAとなっておりますが、部会の意見としてはBとなっております。こちらは、ほかの項目でも、先ほど申し上げたように評価が落ちているものは大体こういうものと申し上げましたけれども、こちら下線に書いてあるとおり、過去6年間、年度の評価としては2023年度も含めてBが5回、Aが1回となっております。それにもかかわらず、中長

期期間の評価をトータルすると、Aとするだけの根拠が明確ではなかろうということでBとなつてございます。

さらに言われておりますのは、ETS-9の打ち上げ成功、今後、打ち上げ自体は行われますけど、仮にそれができたとしても、キャッチアップを目的とした計画の遅れというのも考慮するとBであろうということでございます。

一方で、部会の中でもありましたのは、この分野については、ぜひエンカレッジをJAXAのほうでしてほしいというようなこともありまして、以下に書いてありますとおり、光通信分野においては顕著な成果を上げており、我が国としても重要な分野であるため、人員・予算等の体制強化を念頭に、今後さらなる成果創出を期待したいという、まさに期待を込めた言いぶりになってございます。

それから2点目の「リモートセンシング」ですけれども、こちらは自己評価、それから部会での意見案ともにSという評定になってございます。こちらについては、災害時等衛星データを防災機関や自治体等へ迅速に提供し、減災に役立てる仕組みが広く普及し、海外においてもセンチネルアジア等を通じて、災害後の対応支援に貢献し、相互支援・互恵関係構築に貢献したことが、特に顕著な成果の創出と認められると。ALOS-3自体は、先ほど申し上げたように、ロケットの打ち上げ失敗によって失われていますけれども、総合的に見れば、それでもなおS評価が妥当であろうという評価となつてございます。

それから3点目が、先ほどと同じ「情報システムの活用とセキュリティの確保」という面でございます。先ほどの年度評価の際にはかなりセキュリティに寄ったコメントが多くございましたけれども、こちらのほうはシステムの活用という面もございますので、トータルとして見た場合ということで申し上げますと、こちらに記載されているとおり、新型コロナ禍でテレワークを余儀なくされる中、それ以前から進めていた情報システムを活用して、必要な職員全員をテレワークへとスムーズに移行したこと、スーパーコンピューターの利用を進め、リソースの時間配分管理をきちんと行い、研究や開発成果を上げたことは高く評価できるということでございます。

一方で、先ほどの話にも戻るのですけれども、2023年度に発生した情報セキュリティ事案に伴う様々な懸念点を踏まえ、セキュリティ分野においては本中長期計画を通じてさらなる改善が必要な状態にあったと判断されることから、トータルとしてはBとなつてございます。

それから、「法人全体に関する評価に関する意見の概要」というところですけども、宇宙

戦略基金については年度の話と同様でございます。新たな業務として加わったと。さらには組織も新たな時代を迎えたということで、きちんと内部統制を保ちながら運用できているかどうかを組織内でチェックし、成果を出していただきたいという御意見でございます。

それから、2点目も先ほどのH3、月関係の延長でございますけれども、今期については下線部を御覧いただきますとおり、日本の宇宙開発が次の時代へと歩み出したことを印象づける中長期目標期間となったと。2025年からの第5期では、日本の強みは得意技を生かし、たとえ海外情勢が変化しても日本の力を維持・発揮できるプロジェクトをつくって進めていただきたいという期待の御意見をいただいているところでございます。

主なポイントとしては以上でございますけれども、もう1点だけ、先ほど説明をし損ねてしまいましたので、1ページにお戻りいただければと思うんですが、今回、先ほどのセキュリティも含めて少し評価が難しかった項目がほかにもございまして、Ⅲ.8「情報収集衛星に係る政府からの委託」というところでございます。こちらは情報収集衛星という特質上、どうしても審議会でもいただける情報は限られているというところがございましたので、そういった点も踏まえて、JAXAさんからの御説明をそのまま受け取るならばSであろうと、年度評価としてはSであろうと。その上で第4期についても、Sとまでは言わないまでもAであろうという評価をいただいているところでございます。

セキュリティとか情報収集衛星という事柄の特質上、なかなか評価しにくいところも先生方にはあったかとは思いますが、こちらの評価としてはこのような形になっているところでございます。

4ページ目以降は、先ほど申し上げましたように個別の項目の内容となりますので、全部説明していると時間の都合もあり、こなし切れなと思いますので、一旦ここについては省略させていただきます。もしこの後の御質問等で何かございましたら、補足させていただきます。

私からの説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

【尾家会長】 どうも御説明ありがとうございました。それでは、ただいまの説明につきまして、御質問、御意見などがございましたらお願いいたします。ここにありますように、自己評価と異なった評価を出されていらっしゃると思いますので、随分多くの審議が尽くされたんじゃないかと思います。NICTの部会の方々は、今回初めてお話をお聞きだと思いますが、感想でも御意見でもございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。ございせんか。

では、私から1点。梅比良先生、取りまとめは大変だったかと思いますが、昨年、H3ロケットがうまく打ち上がらなかった等で、JAXAさんで非常に御苦勞が重なったと思うんですが、それを乗り越えてこられて、SLIMも含めて、いい成果が出てきたということで、その評価について、なかなか難しい評価かと思いますが、それまでずっとSではないので、なかなか最後にすごくいい成果が出て、Sにはなかなかしにくいとか、そういうテクニカルな点多かったと思いますが、ただ委員会の中では、最終的に昨年度の評価については高く評価されたと理解してよろしいでしょうか。

【梅比良会長代理】 JAXA部会の梅比良でございます。どうも御質問ありがとうございます。H3の話については、2回、H3とイプシロンと両方とも失敗したということもあって、そもそもマネジメントのやり方に問題がなかったのかということで御検討いただいて、さらに慎重にも慎重に準備をされて、H3が成功したということ、打ち上げが成功したのは皆さん御承知のとおりかと思うんですけども、これについては極めて高く評価されております。

しかしながら、例えば宇宙輸送の分野であれば、イプシロンのほうはまだということで、そういった全体を勘案して、このような評価になっていると御理解いただければと思います。いずれにせよ、でもH3の成功は、また今後、非常にたくさんの打ち上げが予定されていますので、非常に我々も期待しているところでございます。以上でございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。恐らく修正能力というんですか、何か課題があったらそれを乗り越えていく能力が非常に重要かと思いますが、その能力が非常に高く、最後は成功に導かれたのかと感じました。ありがとうございます。

何か御質問はございませんか。よろしいですか。皆様、御理解いただいたということでよろしいでしょうか。

では、令和5年度におけますJAXAの業務実績評価に対する意見につきましては、ただいま御説明いただきました案のとおり取りまとめたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【尾家会長】 ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきたいと思えます。また、総務省におきましては、関係府省との調整等を進めていただくようお願いいたします。

なお、JAXAの最終的な評価結果につきましては、後日事務局から委員及び専門委員宛

てにお知らせいただきたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、本日公開させていただく議題は以上となります。その他、議題1、2につきまして、全体を通して何かございませんか。では事務局から何かございますか。

【平野課長補佐】 事務局でございます。本日の御審議等を踏まえまして、関係府庁等とも調整の上、今後評価の取りまとめ作業を進めていきたいと思っております。NICT及びJAXAの最終的な評価結果につきましては、それぞれ主務大臣の意見として取りまとめて、8月下旬以降に公表を予定しております。最終的な評価結果につきましては、別途、事務局より御連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、本審議会の開催予定につきましても併せて御連絡いたします。本年秋以降にJAXAの次期中長期目標に関する御審議を予定しておりまして、11月中旬から12月中旬にかけて、次期中長期目標の案をJAXA部会にて御議論いただいた上で、12月下旬以降に国研審にて御議論いただく予定でございます。主務大臣からJAXAへの通知は年度内に行うという流れを予定しております。今後、事務局より日程調整等の御依頼をさせていただきますので、御協力よろしくお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

【尾家会長】 どうもありがとうございました。それでは、ここから議事は非公開となります。事務局におかれましては、会議の非公開設定をお願いいたします。また、委員、専門委員の皆様におかれましては、そのままの状態でご待機いただくようお願いいたします。事務局、よろしくお願いいたします。

【平野課長補佐】 事務局でございます。それでは、以降の議事は非公開となりますため、傍聴用のURLでの配信はここで終了とさせていただきますので、御了承ください。

尾家会長へ、非公開設定が完了いたしましたので御連絡させていただきます。

【尾家会長】 ありがとうございます。それでは、続きまして議題3、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務及び組織全体の見直しについて、事務局より説明をお願いいたします。

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務及び組織全般の見直しについて

【扇課長】 ありがとうございます。改めまして、総務省宇宙通信政策課の扇でございます。よろしくお願いいたします。そうしましたら資料国研20-3を投影させていただきたいと思っております。

JAXAにつきましては、先ほども申しあげましたとおり、7年間の中長期目標期間の、昨年度が6年目のタイミングと、今年度が最終年度ということで、来年度には新しい中長期間を迎えるということで、JAXAを所管する内閣府、総務省、文科省、経産省の4府省において、見直しの内容案を作成しているところでございます。本日はこちらについて御説明をさせていただくとともに、先生方から御意見を頂戴できればと思っております。

こちらの資料を見ていただきますと、大きく2点に分かれてございます。まず1ポツ目が1ページのところで、そもそもJAXAに対して政策的にはどういったことが求められているのかと。そして、それから現状の課題というのは何かということに記載しているところでございます。そういった現状認識を踏まえまして、3ページになるんですけども、次期中長期の間にどういった措置を講じるべきかということ、この2ポツのところで記載しているというものでございます。こちらの内容について御説明をさせていただきます。

そうしましたら、また1ページに戻っていただきまして、上からなぞったような形で御説明させていただきますが、こちらは、そもそものJAXAの法人の目的は何かということから、宇宙基本計画においてJAXAにはどんなことが求められているのか、さらにはその具体的な中身、その上で、次期中長期目標期間においてはどういったことが期待されているのかということに記載しているものとなっております。

まず、その一番初め、赤字で書いてある「法人の設置目的」ということですが、こちらはJAXA法に書いてありますように、JAXAについては、宇宙科学に関する学術研究及び宇宙航空に関する基礎・基盤的な研究開発並びに人工衛星等の開発、打ち上げ、追跡及び運用等、宇宙空間を利用した事業の実施を目的として民間事業者が行う先端的な研究開発に対する助成の業務、こういったものを総合的に行うことによって、大学等における学術研究の発展、宇宙科学技術及び航空科学技術の水準の向上並びに宇宙開発及び利用の促進を図ることを目的とするということがJAXAの目的となっております。

その上で、JAXAについては、宇宙基本計画に基づかなければならないと、中長期目標を定めるに当たってはこの計画に基づかなければならないということが法律上規定されておりまして、この宇宙基本計画でどういったことが求められているのかということが2つ目の赤字の部分で記載されているところでございます。

昨年の6月に閣議決定されている宇宙基本計画におきましては、大きな宇宙政策をめぐる環境変化として、こちらのかぎ括弧に書いてあるような6点を挙げております。まず、「変化する安全保障環境下における宇宙空間の利用の加速」、それから「経済・社会の宇宙シス

テムへの依存度の高まり」、「宇宙産業の構造変革」、「月以遠の深宇宙を含めた宇宙探査活動の活発化」、「宇宙へのアクセスの必要性の増大」、「宇宙の安全で持続的な利用を妨げるリスク・脅威の増大」と、その6点をまず大きな変化として挙げております。簡単に言うと、安全保障のニーズが高まっているということと、民間の利用がどんどん進んできているということと、さらには射場等、宇宙アクセスへの必要性が高まっているというようなことが書かれています。

そういったものも踏まえまして、政策目標としては、「宇宙安全保障の確保」、「国土強靱化・地球規模課題への対応とイノベーションの実現」、「宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造」、「宇宙活動を支える総合的基盤の強化」ということが掲げられているところでございます。そういった宇宙基本計画の中で、JAXAにつきましては、宇宙開発の中核機関というような位置づけがなされております。

こういった目標を実現するに当たって、各種先端・基盤的な研究開発、プロジェクトの実行、さらには民間事業者や大学等への支援等を通じた社会に対するアウトカムの創出が求められているということが、大きな総論としてJAXAに求められている役割となっております。

その次の赤字の部分ですけども、こういった中でも特に強調されているのが、産学官の結節点にJAXAはなしてほしいというところでございます。我が国の研究開発レベル・技術力の底上げが急務になっておりますけれども、そういった中で、この基本計画においては、JAXAを産学官、国内外における技術開発・実証、人材、技術情報等における結節点として活用すると。そしてその産学官の日本の総力を結集することで、宇宙技術戦略、こちらは日本のどんな技術が勝ち筋となるかということ今年3月に宇宙政策委員会でまとめている戦略になっておりますけれども、この戦略に基づいて商業化支援、フロンティア開拓、先端・基盤技術開発などの強化に取り組むということが明記されてございます。

この宇宙基本計画の方針を踏まえまして、昨年国会においては、JAXAに新たに、先ほどから話がありますとおり、ファンディングエージェンシーとしての機能を追加すると、そういった内容のJAXA法の改正が行われておりまして、新たに宇宙戦略基金が創設されたということになってございます。

加えて、その次の2ページ目の赤字の「研究開発プランにおいて求められる役割」というところは、こちらはあまり総務省とは関係ないところになりますけれども、航空分野につきましても、こちらについては「分野別研究開発プラン」というものがございまして、こちらに

基づいて、同じように航空産業の振興、民の支援であるとか、あるいは国際競争力向上に資する研究開発を推進するということがJAXAに求められているという形になってございます。

こういったことを踏まえまして、次の赤字の部分ですけども、「次期中長期目標期間においてJAXAに期待される内容」をこちらでは記載されておまして、大きく3点挙げられております。まず、1点目ですけども、自らの研究開発能力を強化して、先端的な研究開発に挑戦し続けるということがございます。2点目としましては、宇宙戦略基金に代表されるように、国内の様々なプレーヤーへの資金供給等を通じた支援を行うということ、それから3点目としましては、国際宇宙協力の強化に資する活動を行うということになっております。こういった活動を通じて、JAXAには、我が国全体としての研究開発の成果の最大化、宇宙産業エコシステムの発展、国際的なプレゼンスの維持向上に貢献することが期待されていると考えております。

さらに、これに加えて4点目としては、先ほどから話のある宇宙安全保障ということをお話しさせていただいておりますけれども、宇宙安全保障に係る事業にJAXAの知見・技術を活用することも期待されていると考えてございます。

これらのJAXAの活動分野、貢献分野に加えて、JAXAの内部管理的な話として、マネジメント及びセキュリティへの期待というものもございます。本法人の業務及び組織については、先ほどの実績評価の話でも挙がりましたが、セキュリティ、マネジメント、いろいろ言われてございます。JAXAの中では、現在法人のマネジメント改革検討委員会というところでマネジメント改革についての検討も行われておりますし、セキュリティ対策については、統一基準群を踏まえた対応も行われておりますので、全体としては適正、効果的かつ効率的な業務運営という独法の業務運営理念の下で研究開発の最大化という国立研究開発法人の第1目的が達成されるよう、業務・組織も見直すことが求められていると考えてございます。

続きまして3ページを御覧ください。それで実際、次の中長期の目標期間において、こういったことを具体的にやっていくべきかというところをこちらで記載しております。

まず2の(1)として、中長期の目標期間についての定めでございます。こちらについては、御案内のとおり、この中長期期間から、その期間を5年から7年と変更しておりますけれども、国立研究開発法人でございますので、長期的な視点を含む研究開発の特性ということを踏まえまして、この期間については、引き続き5年ではなく7年とすることを考えてご

ざいます。

それから（２）として、中長期の目標の具体的なアクションの方向性ということになりますけれども、こちらについては、まずはその中長期目標の策定に当たっては、先ほどの問題意識を踏まえて、自らの能力を最大限発揮していくと、それから産学官の結節点として機能していくと、そういうことで宇宙開発の中核機関として求められる役割を果たす組織になるようにということでございます。

それに加えて、先ほどの国際的なというところもありましたけれども、国際的な観点も踏まえつつ、適切な目標設定をしていくということを記載してございます。その際、先ほどの宇宙基本計画、あるいは航空分野でありますと研究開発プランと書いてありましたけれども、そういうものを、そこで示されているような施策の着実な実行ということに加えまして、さらに、この（２）の下に２つ丸ポツが書いてありますけれども、こちらについても留意していくということを決めていきたいと思っております。

まず１点目のポツですけれども、宇宙開発の中核機関としての機能の強化ということで、今申し上げたような事柄、宇宙戦略基金を含めたものですが、本法人の先端・基盤技術の研究開発能力を強化するとともに、産学官の結節点として宇宙戦略基金を活用した民間企業、大学等への支援が着実に進むよう取り組むと。あわせて、宇宙戦略基金との効果的、効率的な連携に向けて、既存事業等を再編・強化するということでございます。

加えて、これらの活動を進めていくために、JAXAの人的資源の拡充・強化を図るということでございます。新たな業務が追加されておりますので、ここには人も必要であろうということでございます。また、産学官との人材交流を強化していくとともに、宇宙開発を担う主体及び安全保障を含む、宇宙を利用する主体との交流を一層進めていくと。加えて、国際的な協力も強化し、その際、政府が行う国際的な規範ルール形成の取組への支援を一層進めていくということでございます。

もう１点のポツが、情報セキュリティを含む機構全体のマネジメント改革の推進ということでございます。こちらは、第４期中長期期間中に発生した２度の打ち上げ失敗でありますとか、あるいは医学系の研究に関する倫理指針不適合事案というものもありまして、先ほど申し上げたとおり、JAXAがマネジメント改革に取り組んでおります。その検討結果も踏まえて、理事長のリーダーシップの下、研究開発マネジメント及び内部統制を含む機構全体のマネジメント改革をしっかりとやってほしいというものでございます。セキュリティについては、先ほど話題になりました、インシデントに関する原因究明の結果も踏

まえて、セキュリティの対策強化と、そういったことを適切に推進していくということを記載しているものでございます。

本見直し案の内容につきましましては以上となりますけれども、部会での御議論についても少し御紹介させていただければと思っております。

3ページの上のところにあります、まず中長期目標期間についてでございます。先ほど御説明させていただいたとおり、以前は5年であったものを7年に変更している。これについてのJAXA自身の評価はどうなっているのかという御質問が部会ではございました。これに対してJAXAから、宇宙開発自体は長期的視点で研究開発に取り組むというものでもあるので、7年が妥当ではないかと自分たちは考えているというようなコメントがございました。

一方で、御質問でさらにありましたのは、宇宙の分野は非常に変化も早いものでございますので、スピード感を踏まえれば、単年度ごとにもいろいろ考えていかないといけないんじゃないかというようなコメントもございまして、これについては基本計画の見直しであるとか、JAXAのほうでは年度計画をつくっておりますので、こういったことでしっかり対応する必要があると考えているところでございます。

それからもう3点、御質問なり御意見がございまして、2点目が、先ほど来申し上げた宇宙戦略基金、これが新たにJAXAに追加されたということで、この基金とJAXA自身のこれまでの業務との関係、あるいは業務が新たに追加されたけれども、JAXAの体制としては十分なのかというような御質問がございました。これについては、基金と従来の業務のシナジーをしっかりと効かせていくということが大事であろうと。また、JAXAにおいても人的資源の拡充・強化に取り組むということを言っておりますし、この見直し内容案にもその旨を記載させていただいているところでございます。

それから3点目が、宇宙安全保障ということで、ペーパー上、出ているということもあって、安全保障についてJAXAがどこまで関わっていくのかというような御質問もございました。これについては、JAXAから、政策目標としては、もちろん宇宙安全保障というのはあるのだけれども、当然自分たちで全部安全保障をやるわけではなくて、JAXAが持っている技術力とか運用力とか、そういった面での貢献が期待されているものと理解していますというような御説明がございました。

そして最後に、JAXAによる民間支援というのが、この戦略基金を含めて出てきておりますけれども、一方で民に任せるところは民に任せるとはいいのではないのかと、そういったこと

がこの見直しの内容を中にはきちんと書き切れているのかというような御質問がございました。具体的には、既存事業等の再編・強化と書いておるんですけども、そこに書き切れているのかという御質問もございました。

この点については、部会後に改めて事務局でもこの文言を見まして、再編には御指摘のような趣旨も含まれているかとは思っておるところでございますけれども、この文書自体は4府省でつくっているものでございますので、改めて4府省の間でも調整ができればと思っておるところでございます。

説明が長くなってしましまして恐縮ですけれども、本見直し内容案、それから部会での御議論の御紹介ということで以上となります。何かございましたら、御意見をお伺いできればと思っております。よろしくお願いいたします。

【尾家会長】 ありがとうございます。それでは、ただいまの説明につきまして、御質問、御意見などがございましたらお願いいたします。

どうも御説明ありがとうございます。それでは、皆様、何か御質問ございませんか。

では、皆様から御質問が出る前に、私から1つ御質問させていただきたいと思いますが、今回見直しというタイトルになっているんですが、これまでの方向性等と比較して、大きく変更しようとしている点などにつきまして、もしございましたら教えていただけますでしょうか。

【扇課長】 ありがとうございます。そういう意味で言いますと、非常に大きな変化としては、ファンディングエージェンシーとしての機能、宇宙戦略基金ができたというところが大きいかと思っております。JAXAの予算というのは大体、平年度ベースで1,500億円ぐらいで、補正予算を含めて、それでも2,100とか200とか、そういった規模でございますけれども、JAXAの宇宙戦略基金については、昨年度の補正だけでも3,000億円という、JAXA全体の予算を超えるような予算がついているということで、ここをしっかりとやっていかなければいけないということが関係省庁の大きな意識としては持っているところでございます。

ですので、ほかにもセキュリティの話であるとかマネジメント改革、こういったものはきちっとやっていくということは当然求められる話ではありますけれども、大きな変化というところで申し上げますと、少なくとも総務省としましては、この宇宙戦略基金による民間の支援というところが大きなポイントになっているかと考えているところでございます。

【尾家会長】 どうもありがとうございます。そのほか皆様から何か御質問はございま

せんか。

では、私からもう1点質問させてください。今、総務省では、B e y o n d 5 G / 6 G の推進を今行おうとしているところだと思いますけれども、その中でこの宇宙分野は非常に重要な役割を担っていると認識していきまして、今後のJ A X A が取り組むべき方向性と、総務省が掲げるB e y o n d 5 G の方向性と共通する部分があってもいいのかとは思いますが、ただ、細かいお話をここの中に多分盛り込むのではないかなとは理解しているんですが、こういった見直し案の中で、総務省としてコミットしていけるような、大きなコミットができるようになっているのかについて、何か教えていただければと思いますが、いかがでしょうか。

【扇課長】 ありがとうございます。そういう意味で言いますと、おっしゃるようにまさにB 5 G と我々も方向性を一緒にするというか、描く未来像としては一緒になっていくと思いますので、宇宙の中から見れば、宇宙の中の通信ということではあると思いますけれども、通信の側から見れば、通信の中の宇宙ということだと思いますので、その結節点に今、我々自身がいるのかと思っております。その意味で、宇宙とB 5 G とをつなぐような役割をぜひ果たしていければと思っております。

そういった観点から申し上げますと、この宇宙戦略基金というのは、我々自身にとっても非常にありがたい仕組みだと思っております。これまで総務省のほうでJ A X A への関わりというのは、まさに業績評価の話はございますけれども、具体的に予算をもって深く関わっていくところがなかなかできていないところでもありましたので、今回この宇宙戦略基金のタイミングと、ある意味この次期中長期目標の期間の見直しのタイミングというのがいい具合に重なってきていると思っております。ぜひ、宇宙の中の通信というだけではなくて、その2つが一体となったような形で今後の政策展開も考えていければと思っております。

実際、細かい話ではありますけれども、かなりJ A X A の方々ともコミュニケーションが増えているなというのをこの1年感じておりまして、大きな方向感も合わせながら進めていけるだろうと我々自身も期待しているところでございます。言い方が抽象的で恐縮ですが、以上でございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。期待しております。

何か皆様から御質問はございませんか。よろしいでしょうか。梅比良先生、いろんなもう御審議された結果だと思いますが、何か一言ございますか。

【梅比良会長代理】 梅比良でございます。どうもありがとうございます。

Beyond 5Gと宇宙戦略基金、両方ともファンディングという形を取っているんですけど、最終的には日本の産業力強化を目指しているということで、こういう例えばNICTと通信関係の業界、それから、あと宇宙関係の民間企業、これはいろんなスタートアップとかも含めてだと思えますけども、それとJAXAということで、宇宙の関係の産業振興というのが最終的な、こういったものをどうやって評価するかというのがまたなかなか難しい話になってくるかと思うんですけども、そういうことが、中でも、この国立研究開発法人審議会が果たす役割は結構大きいかと思っておりますので、こういった新しいものについてどうやってやっていくのか、また考えながらさせていただければと思います。

私からは拙いコメントで恐縮ですけど、以上でございます。

【尾家会長】 突然どうもすみませんでした。ありがとうございます。皆様、よろしいでしょうか。

今ありましたように、Beyond 5Gとの関連と、あと、周波数が非常に重要になってきておりまして、低軌道衛星が利用できる周波数とか周波数保護とかいう言葉も使われておりますが、総務省の役割がより一層重要になってきているのではないかと感じております。

【平野課長補佐】 事務局でございます。森田先生から手が挙がっているようですので、御確認いただければと思います。

【尾家会長】 お願いいたします。

【森田専門委員】 Beyond 5Gとは外れてしまうんですけども、素朴な質問ということでさせていただきたいんですけど。先ほどの議題2でも気になっていて、情報セキュリティですが、2つの国研でやっていて、NICTのほうでは評価Sで、JAXAのほうでは、内容が違うのかもしれませんが、ここは私も勉強不足ですけど、Cという評価になっていて、同じ国研で、これからの強化策にも情報セキュリティは入っているので、ここをうまく協調する方法はないのかと。情報セキュリティというのは、もう誰もが脅威と思っている昨今ですので、その辺りの、私が違和感を感じるだけなのか、事実はどうなのかというところで御質問させていただきたいんですけども、よろしく申し上げます。

【尾家会長】 ありがとうございます。大変重要な御指摘だと思います。ここの審議会が所掌している2つの国立研究開発機構が協力すればいいのかもしれませんが、その辺りは、どなたがこれに対してお答えいただけますでしょうか。

【扇課長】 宇宙通信政策課の扇でございます。御指摘ありがとうございます。まさにおっしゃるとおりのところはあるなと思いつつ伺っておりましたけれども、一つ評価が分かれてしまう要素としては、私自身、これは今、半分個人的なコメントにはなってしまうんですけども、N I C Tのほうは、まさにセキュリティを研究開発する部隊がいるというところで、非常にセキュリティに関しては強い研究開発法人かと思っております。一方で、J A X Aについては、セキュリティ自体を専門とするわけではないので、基本的には、ほかの研究開発法人と同じような形でセキュリティ対策をしていく組織ということにはなるのかなと思っております。

その上で、私は以前、内閣サイバーセキュリティセンターにいましたので、その個人的な感覚も含めて申し上げますと、こういう宇宙分野とか最先端の技術を持っている組織はどうしても攻撃を受けやすいというところもございまして、そういった意味でも、なかなかJ A X Aさん自身は難しい立場に置かれている組織なのかなというもございまして、そういったところをトータルすると、N I C TとJ A X Aで、評価としてはこういうふうな割れ方をしてしまうというのがあるのかと思っております。

拙い回答ですけれども、私からは以上でございます。

【森田専門委員】 ありがとうございます。

【津幡技術革新研究官】 事務局の津幡から補足させていただきます。今、扇からも申し上げましたけれども、N I C Tのサイバーセキュリティ分野、N o . 3というところは、まさに研究なり、あるいは人材育成、あるいは調査みたいなこともやっておりますけども、そういう部門での評価をSとつけているところでございます。

他方、N I C T自身の情報セキュリティ対策というのは、実は評価書N o . 1 0のところでは評価をしていただいております、そこについては、J A X Aほど大きな事故ではございませんけれども、細かいインシデント等が実際発生しております。いずれにしても、N o . 3のところのサイバーセキュリティ分野の研究、あるいは人材育成等の成果を、政府全体、内閣サイバーセキュリティセンターを含めて広げていって、J A X Aを含むほかの国立研究開発法人のほうにも、よりよいセキュリティ対策ができるようにということには当然考えておりますので、そういう形で反映させていただくということになるかと思っております。

【森田専門委員】 分かりました。ありがとうございます。私も最後に津幡さんに御説明していただいたようなことが懸念でして、評価が違うということよりは、世の中が苦勞しているのは、J A X Aのように攻撃されてしまうという事実に対して、国研としてN I C Tの

持つ研究がより早く効果を出せないかということで、3番の議題の中で申し上げた次第です。ありがとうございました。

【尾家会長】 ありがとうございます。NICTがいろんなセキュリティ攻撃を早めに察知するなどのツールを開発して、皆様に提供していますので、この辺りもJAXAのほうでも活用していただいているのではないかと思うんですけど、連携がもっと進むといいのでしょうね。ありがとうございます。

【森田専門委員】 ありがとうございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。そのほか何か御質問はございませんか。よろしいでしょうか。どうもありがとうございます。

それでは、ただいまJAXAの見直し内容案を御説明いただきましたけれども、当審議会としては、特段の修正意見はなしということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【尾家会長】 ありがとうございます。それでは、今後は関係4府省においてさらに検討、調整を進めていただきまして、内容の確定、公表をよろしく願いいたしたいと思います。最終的な見直し内容につきましては、後ほど審議会にもお知らせいただきたいと思います。

それでは、これが最後の議事となりますが、その他全体を通しまして何かございませんか。事務局から何かございますか。

【平野課長補佐】 事務局でございます。本日の御審議、誠にありがとうございました。本日の議事録につきましては、後日、事務局から御確認をお願いさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりますけれども、予備として皆様にお時間をいただくようお願いしておりました8月7日水曜日につきましては、本日の議論を踏まえまして開催しないことといたしますので、御了承いただきますようお願い申し上げます。事務局からは以上でございます。

閉 会

【尾家会長】 ありがとうございます。それでは、以上をもちまして、第20回総務省国立研究開発法人審議会を終了いたします。皆様、御協力ありがとうございました。

(以 上)